

〈研究発表〉

未来企画会議

サンタ 100 人会議

芦田 孝広¹⁾, 江澤 正晃²⁾, 田中 秀明³⁾, 田中 浩基⁴⁾

¹⁾ ㈱タクマ

(〒 660-0806 兵庫県尼崎市金楽寺町 2-2-33 E-mail: taka0717@takuma.co.jp)

²⁾ 荏原環境プラント(株)

(〒 144-0042 東京都大田区羽田旭町 11-1 E-mail: ezawa.masaaki@ebara.com)

³⁾ ㈱堀場アドバンスドテクノ

(〒 601-8306 京都市南区吉祥院宮の西町 31 E-mail: hideaki.tanaka@horiba.com)

⁴⁾ 東芝インフラシステムズ(株) 北陸支社

(〒 930-0008 富山県富山市神通本町 1-1-19 E-mail: hiroki2.tanaka@toshiba.co.jp)

概要

近年、日本では子どもの貧困率が増加傾向にあり社会問題となっている。地域単位のコミュニティが開催する子ども食堂では、子どもたちに生活基盤を提供することで子どもの貧困問題解決に向けて活動している。一方で、そのような子どもたちが夢や希望が持てる機会が少なく、より増やしていく必要があると考えた。

そこで本研究発表では、子どもたちに夢や希望を与え、100人の共感が得られる企画を検討した。さらに、検討した企画を実行することで企画の効果を調査した。

キーワード：ボランティア、企画、サンタ、夢、希望

原稿受付 2018.1.10

EICA: 22(4) 14-16

1. はじめに

今年度の未来企画会議は、「企画力の実践～100人に響く企画を創造する～」というテーマを掲げて開催され、さまざまな分野でクリエイティブな活動をしている人たちに講師に招き、新たな企画を立案するための方法を学んだ。そのなかで、すべての講師が共通して持っていたものは、考える企画に対してワクワクする気持ちであった。そこで、著者らのグループでは、「その企画はワクワクするか？」ということを常に自問自答しながら企画検討を行った。

2. 企画の検討

2.1 企画の背景 (1) 「人のために役に立ちたい人たち」

2011年、東日本大震災が発生し、被災地の復興のため多くの人ボランティア活動や募金活動などの支援に参加してきた。しかし、日本財団学生ボランティアセンターの「全国学生1万人ボランティアに関する意識調査2017」によると、ボランティアに関する興味のある人が半数以上の6,137人いる一方で、実際に1年間でボランティア活動を実施した人は2,709人となっている (Fig. 1)¹⁾。人の役に立ちたいという思

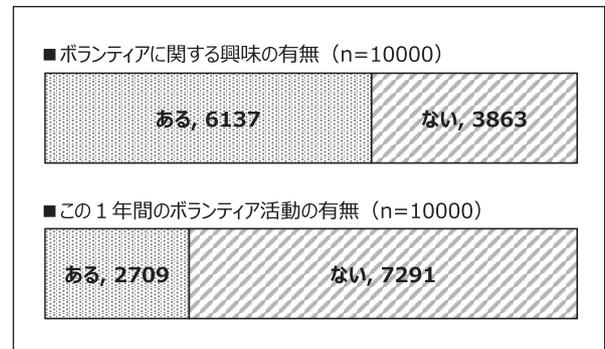


Fig. 1 Attitude survey about the volunteer activities of 10,000 Japanese students in 2017¹⁾

いがあっても、実際に行動に移せていない人が多くいることがわかる。

熱い思いを持っているにも関わらず行動に移せない人に対して、行動するきっかけになる企画を提供することにより、人の幸せを考える人が増える。その結果、人と人が支え合うより明るい未来を創ることができると考えた。

2.2 企画の背景 (2) 「子どもの貧困」

近年、日本では子どもの貧困率が増加傾向にあり社会問題となっている。低所得世帯で育った子どもは教育を受ける機会が少なくなる傾向があり、進学率が低

下することで非正規雇用や生活保護が増え、財政収入の損失は15兆9,000億円になると言われている²⁾。地域単位のコミュニティが開催する子ども食堂では、子どもたちに生活基盤を提供することで子どもの貧困問題解決に向けて活動している。しかし、そのような子どもたちが、夢や希望を持てる機会は十分ではなく、より増やしていく必要があると考えた。

2.3 立案企画

前述した二つの課題を解決する手段として、サンタ100人会議を立案した。

子どもに夢を与える代表的な象徴といえば、クリスマスのサンタクロースである。クリスマス日には、朝起きると枕元にサンタクロースからのプレゼントが届いており、1年に1回のその特別な日に著者らもワクワクした経験がある。そのようなワクワク体験を子どもに経験してもらうことで、子どもたちに夢を与えることができると考えた。

企画の概要は、人の役に立ちたい100人がサンタに扮し、実行する内容を会議で決定した上で、それを実行に移すというものである。参加者にとっても、サンタの衣装を纏うことで、非日常体験によるワクワク感や、SNSによる拡散効果が得られると考えた。

まず、著者らで検討した実行内容は「ベストサンタコンテスト」である。100人のサンタが街を練り歩き、子どもにプレゼントを渡すと同時に子どもの笑顔の記念写真を撮影する。その撮影した写真の数でベストサンタを決めるというものである。

これらを草案とし、サンタ100人によりイベント内容を決め、実行に移すこととした。

3. 企画の実行

3.1 協力者の獲得と具体的な開催準備

前節の立案企画を、未来企画会議の講師やスタッフの人脈を活用し、埼玉県熊谷市で町興しイベントを企画している方々に提案したところ、賛同を得て本企画に参画してもらえることとなった。

企画開催前に、具体的な実行日時や場所、進め方や準備についての事前打ち合わせを行った(Photo 1)。打ち合わせには、地域の高校生や地元企業経営者の方数人も参加した。この事前打ち合わせでは、サンタ会議開催の後、同日のうちに決定事項を実行することとし、会議を円滑に進めるため、当日提示する実行企画草案4点を決定した。その4点とは、①子どもたちへのお菓子配り、②ごみ拾い、③サンタとの記念撮影、④三本締めをもじったサンタ締めで商店を盛り上げる、といったものである(Fig. 2)。

サンタ会議本番に備え、本企画の情報を直ちに



Photo 1 Scenery of the advanced meeting

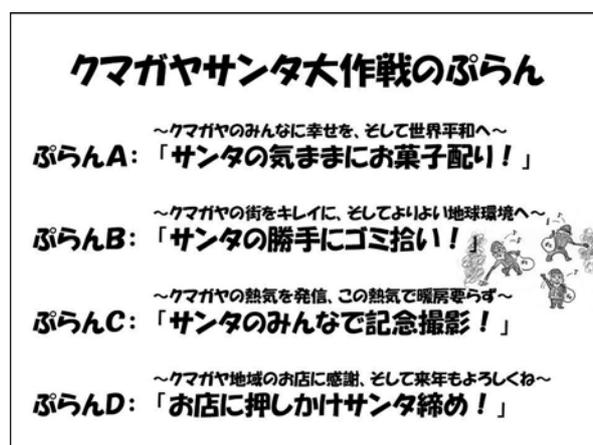


Fig. 2 An example of the slide document used in the Kumagaya Santa conference

SNS や口コミで周知し、参加者を募った。さらに、この企画の情報は新聞各社にも取り上げられ、企画実行の後押しとなった³⁻⁵⁾。

3.2 くまがや100人サンタ会議開催

平成29年12月16日、熊谷駅近傍のクマガヤプレイス(地域情報発信のためのイベントスペース)において、サンタ会議を開催した。約20名の参加者とその他聴衆の元、熊谷の街を盛り上げるための企画について協議を行った(Photo 2)。前述した4点の草案を中心に議論し、①子どもたちへのお菓子配りと④サンタ締めを行うことで熊谷の街を明るくしようと決議された。

決議後、直ちに決議事項の実行に移った。熊谷市街地のファーストフード店、居酒屋等の飲食店やデパート内を中心に練り歩き、途中で出会った人々にお菓子を配りつつ、訪問した店舗の発展や従業員の健勝等を祈念するサンタ締めを行った。

3.3 企画の効果

企画実行中に加わった人も含め、参加してくれたサンタは約30名(Photo 3)、道中・店舗で影響を与え



Photo 2 Scenery of the Kumagaya Santa Claus Congress



Photo 3 Scenery of the Kumagaya Santa Claus parade

た人々は約 300 名程度であった。突然サンタ集団に遭遇したにも関わらず、街行く子どもからお年寄りに至るまで、笑顔でお菓子を受け取ってくれた。また、各店舗の方々も飲食客がいる中、店舗へ入れていただき、サンタ締めを歓迎してくれた。ある花屋を営んでいる店主は、店舗前に設置していた“クリスマスのほり”を貸してくれることで、本企画を支援してくれた。サンタという素材が人の心を暖かくさせ、本企画が受け容れられる一助となり、熊谷の街を盛り上げ人々の心を明るくすることができたと考える。

なお、企画実行当日にも新聞の取材を受け、その実施状況を広く紹介してもらうこともできた⁶⁾。また、練り歩く際に「#くまがやサンタ」というプラカードを掲げていたことも功を奏し、SNS への写真投稿等、第三者による情報の拡散も確認できた。

3.4 企画を終えて

今回は、企画立案から実行までの期間が短かったことが最大の難点であった。それを克服した要因は、何

のためにやるのかという目的意識の明確化と、やはり協力者のもつノウハウ（特に人脈）及びそれに基づく推進力であった。後者は、一朝一夕に得られるものではないと考えるが、今回の企画実行を第一歩とし、今後もあらゆる場面の活動を通じて意識的に研鑽していくという思いを強くした。

4. さ い ご に

EICA 未来企画会議に参加し、普段の業務では関わることのできない業種の方と意見交換する機会ができ、新たな知見を得ることができた。実行を見据えた企画を検討するなかで、実現可能な内容かどうかを考える必要があり苦労したが、企画を実行したあとは全てが報われた気持ちになり、大きな達成感を得ることができた。今回、100 人の共感を得る企画を検討し、実行するという貴重な体験ができたことを光栄に思う。人の心をくすぐるような発想は何かということを考えさせられた本企画に参加することで、所属する会社では得られない経験ができた。今回のようなイベントの企画に限らず、日常業務においても有意義で奇抜な発想ができるよう感覚を磨き続けていきたい。

謝 辞

本企画を実行するにあたり、ご協力いただいた熊谷市の皆様と未来企画会議スタッフの皆様に、深く感謝申し上げます。

参 考 文 献

- 1) 日本財団学生ボランティアセンター：全国学生 1 万人 ボランティアに対する意識調査 2017 (2017) (<http://gakuvo.jp/about/newsrelease/>)
- 2) 日本財団子どもの貧困対策チーム：子どもの貧困の社会的損失 (2015)
- 3) 熊谷経済新聞ニュースサイト記事『「100 人サンタ会議」で熊谷をサンタの聖地に「サンタになりたい人」募集』(<https://kumagaya.keizai.biz/headline/239/>)
- 4) 毎日新聞ニュースサイト記事『100 人サンタ会議「まちをあたたくするアイデアを」参加募集、終了後に実行へ 熊谷で 16 日/埼玉』(<https://mainichi.jp/articles/20171214/dtl/k11/040/137000c>)
- 5) 日本経済新聞ニュースサイト記事『サンタ姿の 100 人が「楽しい会議」埼玉・熊谷』(<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO24707880V11C17A2L72000/>)
- 6) 毎日新聞ニュースサイト記事『「サンタ締め」で街あったか「100 人サンタ会議」』(<https://mainichi.jp/articles/20171223/k00/00m/040/048000c>)